別記様式２－２号

第　受付　号
6.8.13
福井県坂井市役所　議会事務局

視察研修等報告書

令和６年８月１３日

坂井市議会
議長　　戸板　進　殿

会派名　志政会
報告者　後藤　寿和　[redacted]

１．日　時　　令和６年７月１６日（火）～１８日（木）

２．視察研修先　　１６日（火）大宰府市役所
〒818-0101 福岡県太宰府市観世音寺１丁目１－１　092-921-2121
１７日（水）熊本城総合事務所
〒860-0806　熊本市中央区花畑町９番６号3F　096-352-5900
１８日（木）筑後市役所
〒833-8601　福岡県筑後市大字山ノ井898番地　0942-53-4111

３．視察研修内容　１６日（火）歴史的資源を活用した観光まちづくりについて
１７日（水）見せる復旧工事・復元工事と観光について
１８日（木）文部科学大臣表彰の図書館事業について

４．参　加　者　　古屋　信二、上坂　健司、後藤　寿和

５．内容詳細

福岡県大宰府市　『歴史的資源を活用した滞在型観光を目指す取り組み』

元号「令和」発祥の地として知られる福岡県太宰府市は特別史跡が大宰府跡を含め３件、史跡も５件あり、総面積は４８５ヘクタールと、全国でも有数の規模で、史跡の面積が市の面積の１６・４％という割合は、滋賀県における琵琶湖が占める割合とほぼ同じ広さである。　その中でも有名な太宰府天満宮は９割の方が訪れる場所である。その他の史跡地は西側のエリアに点在しており、大宰府天満宮に立ち寄って、そのまま違う観光地に行ってしまい、１０％にも満たない人しか訪れておらず、周遊性に課題があった。また滞在時間も短く消費にも繋がらないことが課題だった。　滞在時間、消費単価が低く、観光客の多さに比べて経済効果が小さい点は、まさしく、本市と同じような課題であり、今回の視察研修で何かしらのヒントがあればと思った。

大宰府古民家宿泊事業が令和元年１０月に HOTEL CULTIA をオープンさせた。市、地元企業、団体と連携し、地域課題の解決を目指し、大宰府観光の PR や様々なメニューを開発して事業協力を実施している。大宰府天満宮と連携し『朝拝』宿泊定見や、

九州国立博物館と連携し『夜間鑑賞』。また西側エリアへの回遊を図る取り組みとして『大宰府人力車体験プラン』、地元金継ぎ師と連携し『金継ぎ体験』といった体験メニューの実施などを行ってきた。

平成３０年度と令和５年度の変化として、クルーズ船の減少や HOTEL CULTIA の開業、そのほかのいろいろな取り組みで平均滞在時間は１５７分から１７４分に、日本人観光客１人当たりの観光消費額は２，８００円から４，６００円に増加した。

また、太宰府市は平成２２年に歴史的風致維持向上計画の認定を取っており、文化財保存活用計画とかかわりは広く活用して、関心を持ってもらい観光に繋げる活動をしている。その一つとして、太宰府市民遺産を市民から集め登録をしている。

熊本県熊本市　熊本城『熊本城 見せる復旧工事・復元工事と観光について』

平成28年熊本地震により甚大な被害を受けた熊本城の復旧に向けた『熊本城 見せる復旧工事・復元工事と観光について』視察研修をしてきた。本市も令和７年度から、丸岡城の耐震工事に入り、足場で丸岡城が見えなくなり、観光客にどのように見せていくのか、参考になることがあるのではと視察先を決めた。

熊本城は現在天守閣の復旧は完了しており、市民県民はもちろんの事、観光客にも開放している。2016年（平成28年）の熊本地震により甚大な被害を受けた熊本城の復旧に向けて、2018 年 3 月に『熊本城復旧基本計画』を策定し、本計画に基づき復旧に取り組んでいたが、計画5年目の2022年度（令和4年度）にこれまでの達成状況や課題などを検証し実績に基づく計画期間の見直しを含めた改定を行った。計画期間は2017 年度から 2052 年度までの 35 年間（当初の計画 20 年からの延長）と 15 年延ばし、最初の 5 年間を短期、計画期間の終期までの 35 年間を中期と設定し、その後の100年先の将来までを長期として位置付けた。

現在は特別見学通路を設置して、観光客にも復旧工事を見てもらっている。

文化財の保護をしなければならないので、江戸時代の前までではなく、地震直前の前まで戻していくことが基本。その場で疑問があればその都度に専門家を入れて決めていっている。10 万個の石垣の石を復旧しており、1 個 1 個がパズルのように直していくので手間とお金がかかる。復旧工事をしていくことで、段階的に公開をしていき、その手法として特別見学通路を設置して見せる復興工事につながった。また、文化財がどういうものか、文化財の復旧をどういう順序で直していくのかを見てもらい、文化財を理解してもらうためでもある。

今までにない事例なので、文化財の保護と安全性の確保のせめぎあいを感じており、全国の城にも適応できる考え方を文化庁と話しながら進めている。

復旧工事を進めることで、地場の産業や瓦や左官、大工などの職人も育っている。現在も 17 歳の瓦職人や女性の大工職人たちが作業しており、職人の技などを継承して、次世代の職人を育てることで地域にも返していきたいと語っておられた。

福岡県筑後市　『筑後市立図書館の特色ある取り組みについて』

平成 18 年に勤労婦人センター内にあった図書室に、市の厳しい財政状況を踏まえ、現状で可能な図書行政について、様々な角度から調査研究を続け、検討を進めてきた結果、市長に7つの提言を提出し、図書室長を置いた。

平成23年に市立図書館になり、この時『光を注ぐ交付金7,600万円』の費用で増築をして市立図書館として設置した。県内では最後に開館した面積下位の市立図書館だが、様々な取り組みが評価され、平成30年に『文部科学大臣表彰』を（子どもの読書活動充実優秀実践図書館）受賞した。子どもの読書推進に注力するのと同時に、地域課題解決への取り組みも行っている。

取り組みとして、

・『図書館de気軽に体力チェック』（健康づくり課）
・『図書館で糖尿病予防』『図書館で高血圧講座』（高齢者支援課）
・『図書館で認知症かふぇ』（地域包括支援センター）
・『常設展示、本の貸し出し及びお話』（筑後市子育て支援拠点施設）

等は、庁内連携事業として行い、図書館で開催することにこだわった。元々図書館の利用者ではない方が来るきっかけになり、利用者増につながる。司書や会計年度職員が提案書を書いて、庁内で精査してもらい採用してもらえるのが筑後市の特色である。

『本 de 恋活』は本をツールにして本好き同士の出会いを応援する恋活イベント。当日はオススメの本の紹介やボードゲーム、1対1のトークタイムを行う。そして成立したときの特典として閉館後や休館日の時に前撮りや挙式をしてもらう。これも無料提供として行い、今までで3組成立している。お金がない中でもアイデアでイベントを作っている。例えば、イベントスポンサーが、無料でウエディングドレスを提供してくれたり、写真の前撮りをしていただいたりと協力してもらっていた。20代から40代の方に図書館に来てもらうきっかけにもなり、マッチングしなかった方々も本が好きだから、夜の読書会の案内を出すと参加してくれて、結果的に図書館の利用増につながった。

『図書館で認知症かふぇ』は図書館職員全員でサポーター養成を受けて、地域包括センターの保健師と一緒に、図書館内の認知症に関する本を沢山あつめ特設コーナーを作ったり、2か月に1回活発な意見交換の場となっている。

雑誌スポンサー制度については、企業スポンサーに広告をつけてもらうことで、年間の雑誌の購読料金を払ってもらい、雑誌の裏表紙に企業の広告を載せてもらっている。9割の企業は広告よりも地域貢献のために行っているのがほとんどだそう。2024年6月現在で117誌のうち47誌が企業スポンサー、8誌が寄贈である。企業側が雑誌を選んでいる。また、係長が一人しかおらず事務的なことが大変になるので、お金のやり取りは書店と企業、広告作成も企業に作ってもらうことで、図書館のほうでは負担がかからない仕組みとしている。

移動図書館『としょま～る号』の設置。軽自動車で誰でも運転できるようにして、自動車学校や幼稚園・保育所・コミュニティセンターや学童保育施設へ巡回をしたり、祭りやイベントにも参加している。

その他にも、宅配サービスやブックスタート事業、図書館ボランティアとの連携、地域との連携など数多くの地域課題解決につながる事業を多くこなしており、本当にびっくりした。また電子図書の貸し出しも取り入れている。

6．所見・感想等

福岡県大宰府市　『歴史的資源を活用した滞在型観光を目指す取り組み』

【古屋　信二】

大宰府の史跡地は約４８０ha で本市の約１６％を占める。つまりは新たな開発が難しいことから、古民家リノベーション事業を推し進めることで宿泊、滞在型観光を誘導している。観光客の入込客数は R2 年度からコロナ禍の影響により大幅に落ち込んだものの R3 年度後半から徐々に回復し R5 年度は、ほぼコロナ前までに回復。

いち早く、H22 年に歴史的風致維持向上計画を認定、R5 年３月には第２期の計画を認定し、歴史的風致形成建物を修理するなど街並み環境整備がすすんでいる。

市内多地点回遊による長期間滞在型周遊観光メニューについてはインバウンド観光客とアクティブシニアを繋ぐ観光商品の造成を産官学により構築。

大宰府市内にある一時有料駐車場の利用者に一定の負担を求めている法定外普通税を H15 年度に創設、税収の使い道は歴史的文化遺産の保存活用、環境負荷削減事業等まちづくりのために使用、年間約７千万円あるという。この仕組みは坂井市の観光地の有料駐車場でも実施可能ではと思った。

【上坂　健司】

太宰府市は、太宰府天満宮や門前町一帯、観世音寺、戒壇院、太宰府政庁跡、水城跡及び九州国立博物館など多くの観光資源を有し、最盛期には年間１千万人を超えるなど多くの観光客が訪れる国際観光都市である。また、万葉集から元号「令和」が生まれた「令和の都だざいふ」として、観光資源が改めて注目されている中、歴史や文化などの地域資源を活用して、地域市民や民間事業者等と連携し体験型観光による地域活性化を促進するとともに、観光客からの経済税収効果をさらに高め、市民にその効果を還元できる観光まちづくりに取り組んでいる。主なものとして、梅ヶ枝餅焼き体験やぷち旅太宰府まちあるきツアーの体験メニュー、太宰府人力車体験プラン、テーマ別周遊ルートの造成、梅グルメ・スイーツ、古民家を改修した HOTEL　CULTIA のオープン、太宰府朝拝宿泊、博物館夜間鑑賞宿泊、金継ぎ体験など磨き上げを図っている。本市においても観光まちづくりについて共通の課題があり大変に参考になった。

【後藤　寿和】

本市も福井県の中でも一番の観光地である東尋坊、現存する１２天守の丸岡城、その他にも史跡等があるが、滞在時間、観光消費額が伸びないのが同じような課題である。北陸新幹線開業したからこそ、これまで以上に官民連携、そして地元企業、団体と事業協力をまだまだ考えていくことができるのではなかと感じた。そのためにも、今回の視察研修の内容等をしっかり伝え、提案をしていかなければならないと感じた。

熊本県熊本市　熊本城『熊本城 見せる復旧工事・復元工事と観光について』

【古屋　信二】

2016 年 4 月の熊本地震で被災した熊本城は、数十年にわたる復旧の様子を観光資源として公開する「見せる復興」が功を奏し、来客数を伸ばしている。R5 年度から 35 万人増の 135 万人が訪れ、地震前の８割近くまで回復、新たに国宝指定重要文化財・宇土櫓を月１回程度、特別公開する。復興工事の関係で立ち入り禁止区域が多い中で遠巻きに見学できる特別見学通路は置き式基礎方式で空中回廊が実現している。また、復興後の撤去作業を簡単に文化財の損傷を最小限に考えられている。

復旧を進めながら観光振興も両立するプロジェクトは全国的にも例がないというがこれからはこの手法がスタンダードになるだろうと思った。是非、丸岡城の耐震工事には観光客に見せる工事を考えてほしいものだ。

【上坂　健司】

2016 年 4 月の熊本地震で被災した熊本城は、数十年にわたる復旧の様子を観光資源として公開する「見せる復興」が功を奏し、来場者を伸ばしている。23 年度は前年度から 35 万人増の 135 万人が訪れ、地震前の 8 割近くまで回復した。崩れた壁やひび割れた瓦など、今しか見られない姿が確認できた。また、城内等で、立ち入りを規制せざるを得ない中、観光に大きな役割を果たしているのが「特別見学通路」。高さ約 5～7 メートルの空中回路で、被災状況を間近で見学できた。置き基礎の工法を用いたプロジェクトであった。現在、全国の被災した城郭でも、復旧の過程を積極的に公開する動きが広がっている。文化財の保護や見学者の安全確保などに対応しながら公開を実現、観光に結びつけた熊本城の取り組みは多くの被災地の参考になると感じた。

【後藤　寿和】

本市としても、今後丸岡城の耐震工事などが控えているが、文化財を復旧することなどを見てもらえるような観光に繋げていき若い職人が育っていくことで伝統文化も引き継がれていくことが望ましいと感じ、見習うことが多い研修であった。

福岡県筑後市　『筑後市立図書館の特色ある取り組みについて』

【古屋　信二】

「生活とともにある図書館」をコンセプトに、市民に役立つ図書館を目指し、市民ボランティアや庁内各課と連携し地域づくりの拠点となっていた。

特色は平成 23 年、県内最後に開館した面積下位の市立図書館だが、様々な取組みが評価され、平成 30 年に文部科学大臣賞を受賞した点。子どもの読書推進に注力する傍ら」、地域課題解決への取組みとして「本 de 婚活」「図書館 de 認知症かふぇ」「図書館 de 体力チェック」など開催。講座には高齢者支援課・地域包括支援センター等の職員が参加し、市民へのアドバイス・相談に応じている。地元団体「ちくごいきいき宅配便」に加盟し、宅配サービスも実施している。やはり、民間出身の図書館長（一ノ瀬留美さん）の功績が非常に大きいが職員からの提案を実現する執行部の対応にも感銘する。

コロナ禍で利用が減少している中、非来館サービス「インターネット予約」や「電子図書館」などを実施しているが、利用方法の周知に課題があるという。坂井市でも同じことがいえると思う。

【上坂　健司】

筑後市の市立図書館は、「生活（くらし）とともにある図書館」をコンセプトに、市民に役立つ図書館を目指し、市民ボランティアや企業・団体と連携し地域づくりの拠点となっている。また、更なる図書行政の充実策について、「筑後市図書行政推進委員会」で検討、運営体制の強化と利用者の拡大を図っている。主なものとして、職員体制については、教育委員会の担当係長１名、専務的パートタイム会計年度任用職員が図書館長を務めており、図書充実に繋がっている。電子図書館の導入については、新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金を活用し、令和４年１月サービス開

始、図書館での健康講座、図書館での恋活、認知症カフェ、雑誌スポンサー制度、移動図書館、地域と連携した図書宅配サービス、読み聞かせなど図書館ボランティアとの連携など幅広く取り組んでいる。公教育としての社会共育施設、税金の還元、より公平なサービス展開、図書館の存在に付加価値をつけ、「図書館は成長する有機体である。」とされていることに感銘を受けたとともに、本市においても、4つの図書館の開館日、閉館時間の拡大を含め運営体制の強化と利用者の拡大の方策を検討すべきと感じた。

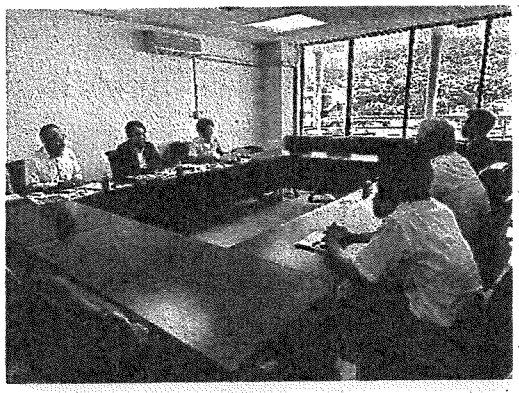
【後藤　寿和】

坂井市には素晴らしい図書館が4か所あるので、もっとアイデアを練って図書館の利用増に繋げられる可能性があるのではないのかと感じた。

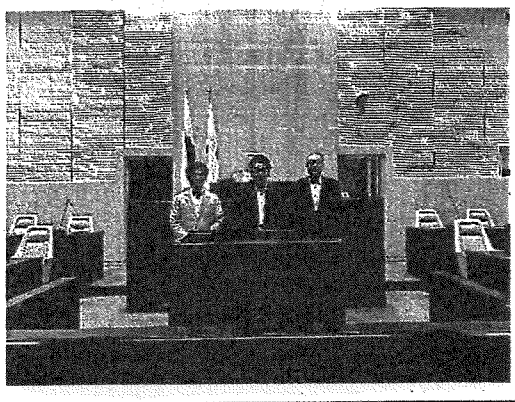
特に雑誌スポンサー制度は本市でも取り入れるべきものではないのかと感じた。結婚にも力を入れている本市だからこそ図書館での出会いのイベントや恋活の話は本市も取り入れるといいのではないのか。

実際に図書館も見学させていただきましたが、小さい中にも居心地の良い空間づくりや分かりやすい並べ方など工夫が館内中に見られた。

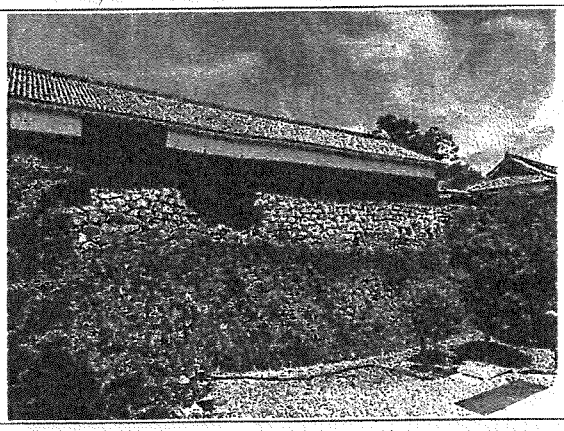
7．添付書類



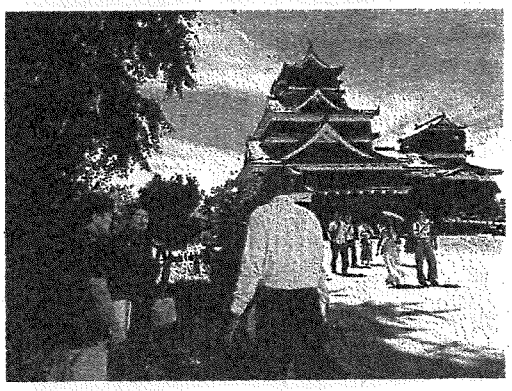
▲太宰府市役所



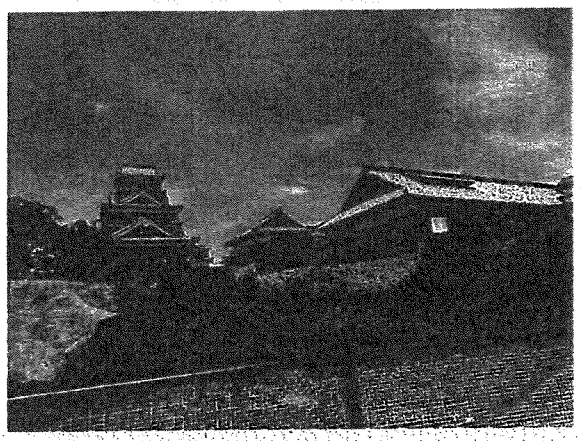
▲太宰府市議会議場

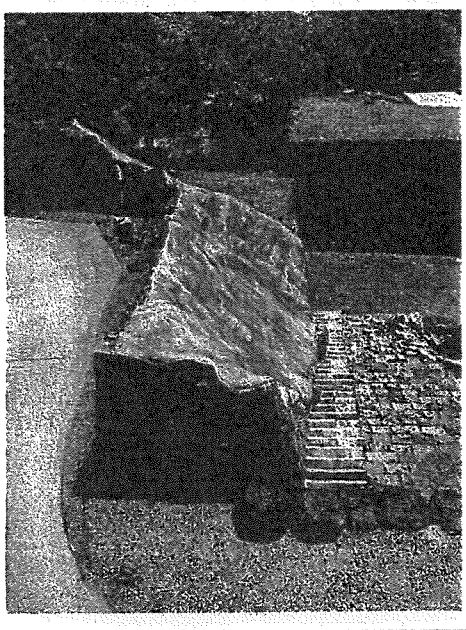


▲熊本城復旧箇所

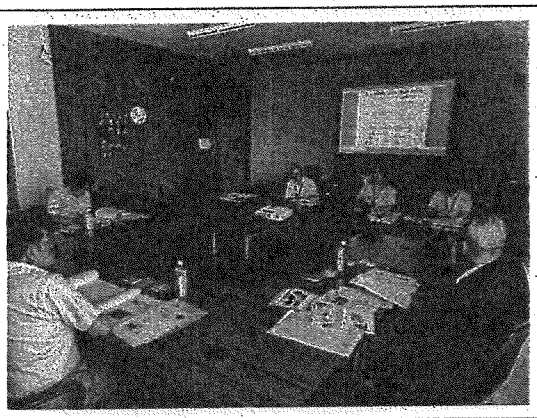


▲熊本城視察

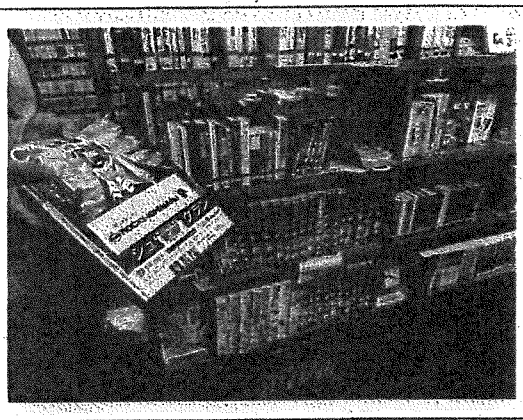




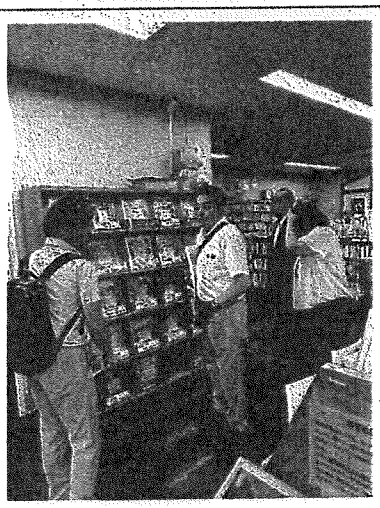
▲特別見学通路より.



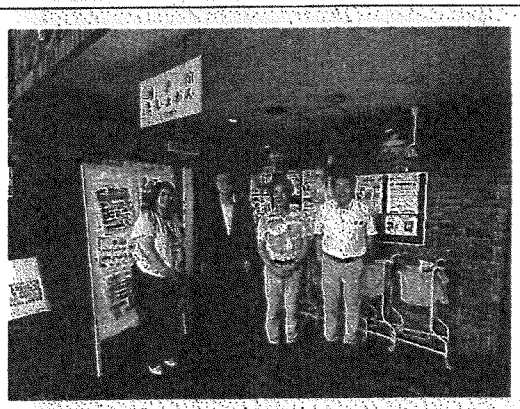
▲筑後市視察



▲スポンサー制度



▲図書館内視察



会派内供覧

[redacted]